

(西暦) 2026年 1月 1日

アレルギー疾患に対する検査や治療を行うため当院に入院・通院されていた患者さん の診療情報を用いた臨床研究についてのお知らせ

はじめに

【研究の意義、目的を記載】

耳鼻咽喉科領域におけるアレルギー疾患は、アレルギー性鼻炎を中心に、副鼻腔、耳、中咽頭まで多岐にわたります。近年、好酸球性炎症の概念の確立と、生物学的製剤を含む治療選択肢の拡大により、診療体系は大きく変化しています。アレルギー疾患は上気道から下気道まで連続した炎症として捉えられており、耳鼻咽喉科ではその入り口として重要な役割を担っています。特にアレルギー性鼻炎、好酸球性副鼻腔炎（ECRS）、好酸球性中耳炎など、好酸球を主体とした疾患群の臨床管理において耳鼻咽喉科の関与は大きいです。

1. アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎は、I型アレルギーを主体とし、くしゃみ・鼻汁・鼻閉を主徴とします。治療の中心は薬物療法であり、抗ヒスタミン薬、鼻噴霧用ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬が用いられます。ステロイド薬は鼻閉に特に有効であり、近年その適切な使用法が整理されています。さらに、舌下免疫療法を含むアレルゲン免疫療法が普及しつつあり、長期寛解を期待できる治療として位置づけられています。重症例では抗IgE抗体療法を含むBiologicsの適応拡大も議論されています。

2. 好酸球性副鼻腔炎（ECRS）

ECRSは、鼻茸の再発や嗅覚障害を特徴とする難治性鼻副鼻腔炎であり、好酸球性炎症が病態の中心となります。診断にはCT画像と病理評価を組み合わせた重症度分類が用いられます。治療は手術とステロイドが中心であるが、喘息合併例が多く、下気道疾患との連携が不可欠です。近年、抗IL-5抗体、抗IL-4/13受容体抗体などの生物学的製剤が有効との報告が増え、治療体系の大きな変革期を迎えています。またEGPAとの鑑別が临床上重要であり、血管炎症状の評価が求められます。

3. 好酸球性中耳炎（EOM）

好酸球性中耳炎は、粘稠な耳漏、難聴、耳内疼痛を呈し、喘息・ECRSとの関連が強いです。従来治療抵抗性であり、ステロイドが第一選択であるが、再燃・難治化の問題があります。Biologicsを含む新たな治療戦略が期待されており、気道関連の観点から総合的管理が求められます。

4. 咽頭アレルギー

咽頭違和感、咳嗽など上気道症状を主体とする症例の中に、I型アレルギーが関与するものが存在します。しかし、咽頭後壁濾胞の存在のみで診断することは困難で、診断基準の確立が課題です。耳鼻科臨床における鑑別診断の一つとして認識し、適切な評価と治療を行う必要があります。耳鼻咽喉科領域のアレルギー疾患の診療を行うためには、確実な診断と適確な治療方針の決定が不可欠です。当科で検査や治療を行ったアレルギー疾患症例の患者データベースを構築し、臨床像および治療成績を統計的に集積分析し、今後の治療へ反映させる必要があります。

対象

西暦 2013年1月1日より2025年12月31日までの間に、【耳鼻咽喉科】にて【アレルギー疾患に対して検査や治療を行う】ため【入院、通院】し、【診療、手術、検査、リハビリテーションなど】を受けた方。

【試料・診療情報等の項目】

参考書式1 情報公開文書（浜の町）

試料：ありません。

診療情報等：① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時および治療後の鼻腔咽喉頭内視鏡検査 ③ 治療内容とその効果 ④ 鼻腔咽喉頭内視鏡・CT・MRI の画像所見 ⑤ 血液検査

【試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法】

本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、研究責任者までご連絡をお願いします。

研究課題名 アレルギー疾患に関する調査研究

研究内容

カルテから下記の情報を取得します。 ① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時およびアレルギー疾患治療後の血液検査・エコー検査・CT検査 ③ 治療内容とその効果 ④ 鼻腔咽喉頭内視鏡検査・CT・MRI・エコー検査の画像所見 ⑤ 血液検査

個人情報の管理について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

研究期間

病院長承認日 ～ 2028年 3月 31日（予定）

医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受け取ることができる利益はありません。しかし、本研究により音声障害の原因と治療効果が明らかになる事により、新たな知見が得られることで科学への貢献が為され、社会への貢献が達成されると考えられます。

研究実施機関

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院【耳鼻咽喉科】

【当院での研究責任者】所属 耳鼻咽喉科 職名 部長 氏名 田浦政彦

【利用する者の範囲】

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 渡邊真理

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 的場信広

参考書式1 情報公開文書（浜の町）

お問い合わせ先

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名 田浦政彦

所属 耳鼻咽喉科

連絡先 092-721-0831

対応可能時間：平日 9：00 から 17：00 まで

以上